

5

安全装備

プリテンショナー付シートベルト

プリテンショナー付シートベルト	5-2
-----------------------	-----

SRSエアバッグシステム

SRSエアバッグシステム	5-3
SRSエアバッグが作動するとき、しないとき	5-10
SRSエアバッグ警告灯	5-19
車両の整備作業やカー用品を装着するとき	5-20

AWD車の運転

運転するとき	5-21
アクティブトルクスプリットAWD	5-22

ブレーキ

アンチロックブレーキシステム：ABS	5-23
ブレーキブースター（制動力倍力装置）	5-26
ブレーキオーバーライド	5-26
ブレーキアシスト	5-26

VDC

ビークルダイナミクスコントロールシステム	5-27
----------------------------	------

ヒルスタートアシスト

ヒルスタートアシスト	5-32
------------------	------

ハンドル

パワーステアリング	5-36
-----------------	------

タイヤおよびホイール

タイヤの点検	5-37
ウエアインジケーター	5-37
ホイールバランス	5-38
ホイールアライメント	5-38

プリテンショナー付シートベルト

プリテンショナー付シートベルト

プリテンショナー付シートベルトは、前方向からの強い衝撃を受けると作動し、シートベルトを瞬間的に引き込んで前席乗員をシートにしっかりと固定してシートベルトの効果を一っそう高めます。

運転席のプリテンショナーは肩ベルトと腰ベルトに、助手席のプリテンショナーは肩ベルトに装備されています。

運転席側

助手席側



⚠ 注意

プリテンショナー付シートベルトの効果を発揮させるため次の事項を必ず守ってください。

- シートを正しい位置に調整する。
☆2-41ページ参照
- シートベルトを正しく着用する。
☆2-55ページ参照

次のような作業をするときは、必ずスバル販売店にご相談ください。

- シートベルトを取り外すとき
- シートベルトを廃棄するとき
- 廃車するとき

🏠 アドバイス

- プリテンショナー付シートベルトは、シートベルトを着用していない場合でも作動します。一度作動すると、ベルトの引き出し、巻き取りができなくなります。
- プリテンショナー付シートベルトが作動した場合は、必ず運転席、助手席とも同時にスバル販売店で交換してください。
- プリテンショナー付シートベルトは、SRSエアバッグシステムと同時に作動します。

SRSエアバッグシステム

SRSエアバッグシステム

SRSエアバッグのSRSとはSupplemental Restraint Systemの略で、乗員補助拘束装置の意味です。

全てのSRSエアバッグはエンジンスイッチがONのときのみ作動可能になります。

運転席、助手席SRSエアバッグは車両前方から乗員が重大な傷害を受けるおそれのある大きな衝撃を受けた場合に作動し、シートベルトが身体を拘束する働きと併せて、前席乗員の頭部や胸部などへの衝撃をやわらげる装置です。

SRS サイドエアバッグは車両側方から乗員が重大な傷害を受けるおそれのある大きな衝撃を受けた場合に作動し、シートベルトが身体を拘束する働きと併せて、前席乗員の主に胸部や腰部への衝撃をやわらげる装置です。

SRS カーテンエアバッグは車両側方から乗員が重大な傷害を受けるおそれのある大きな衝撃を受けた場合に作動し、シートベルトが身体を拘束する働きと併せて、前席と後席乗員の主に頭部への衝撃をやわらげる装置です。

■シートベルトは必ず正しく着用してください

警告

- SRSエアバッグシステムはシートベルトを補助する装置で、シートベルトに代わるものではありません。SRSエアバッグシステムだけでは身体の飛び出しなどを防止できないばかりか、エアバッグ本体からの衝撃を受けてしまいます。
- シートベルトを正しく着用し、正しい運転（乗車）姿勢をとらないと、衝突などのとき、SRSエアバッグシステムの効果が充分発揮されず、命にかかわるような重大な傷害につながるおそれがあります。

☆2-55ページ参照

- 正しい乗車姿勢になるようシート位置、ハンドル位置を調整してください。不適切な乗車姿勢ではSRSエアバッグシステムの効果を発揮させることができず、命にかかわるような重大な傷害につながるおそれがあります。

☆2-41、2-81ページ参照

■乗員とSRSエアバッグの間に物を置かないでください

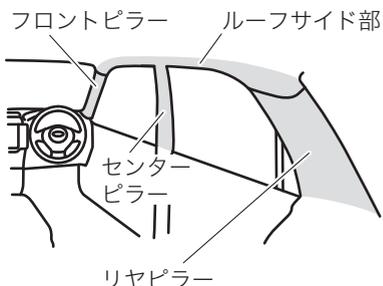
警告

膝の上に物をかかえるなど、乗員とSRSエアバッグの間に物を置いた状態で走行しないでください。SRSエアバッグが膨らんだときに物が飛ばされたり、SRSエアバッグの正常な作動を妨げたりして、命にかかわるような重大な傷害につながるおそれがあります。

■ SRSエアバッグシステム周辺を強打したり衝撃を加えたりしないでください

警告

ハンドルのパッド部、インスト
ルメントパネル、センターコン
ソール、フロントシート背当て
側面、フロントピラー、セン
ターピラー、リヤピラー、ルー
フサイド部、天井、アシストグ
リップなど、SRSエアバッグシ
ステム構成部品の周辺を強打
したり衝撃を加えたりしない
でください。SRSエアバッグが
正常に作動しなくなるなど、命
にかかわるような重大な傷害
につながるおそれがあります。



202200

■ お子さまを乗せるときには次の事項をお守りください

警告

- お子さまは後席に座らせて必ずシートベルトを着用させてください。後席がお子さまにとって最も安全な乗車位置です。



200366

- お子さまをSRSエアバッグの前に立たせたり、膝の上に抱いたり、背負ったりした状態では走行しないでください。



100234

- 6歳未満のお子さまはチャイルドシートの着用が法律で義務付けられていますので、必ずスバル純正チャイルドシートを使用してください。スバル純正チャイルドシートの使用方法はチャイルドシートに付属の取扱説明書をご覧ください。
- チャイルドシートをご使用の場合には、必ず後席の外側席に取り付けてください。



200127

- 助手席に前向き、後ろ向きを問わずチャイルドシートを絶対に取り付けしないでください。事故などで助手席 SRS エアバッグが膨らんだとき、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。



500684

■運転席SRSエアバッグ

ハンドル部に格納されたSRSエアバッグが瞬時に膨らみ、すぐにしぼみます。

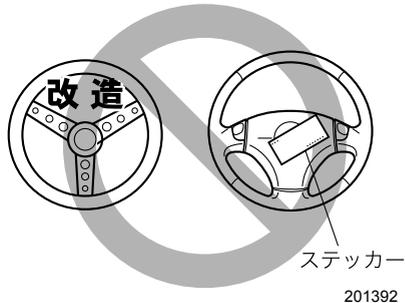


200123

■運転席SRSエアバッグに関しては、次の事項をお守りください

警告

- ハンドルを交換したり、センターパッド部にステッカーなどを貼らないでください。SRSエアバッグシステムが正常に作動しなくなります。
- ハンドルのSRSエアバッグ格納部に手を置いたり、顔や胸などを近づけないでください。SRSエアバッグが作動したとき、衝撃を受け、命にかかわるような重大な傷害につながるおそれがあります。



201392

■助手席SRSエアバッグ

助手席インストルメントパネル部に格納されたSRSエアバッグが瞬時に膨らみ、すぐにしぼみます。

助手席に同乗者がいなくても運転席SRSエアバッグと同時に作動します。



200124

■助手席SRSエアバッグに関しては、次の事項をお守りください

⚠ 警告

- インストルメントパネルのSRSエアバッグ格納部に手や足を置いたり、顔や胸を近づけたり、もたれかからないでください。SRSエアバッグが作動したとき強い衝撃を受け、命にかかわるような重大な傷害につながるおそれがあります。
- インストルメントパネルの上面にステッカー類を貼ったり、アクセサリーや芳香剤などを置かないでください。また、フロントガラスにアクセサリーなどを取り付けたり、ルームミラーにワイドミラーを取り付けしないでください。SRSエアバッグシステムが正常に作動しなくなったり、作動時にこれらの物が飛び、命にかかわるような重大な傷害につながるおそれがあります。
- インストルメントパネル上面近くにテレビやナビゲーションシステムを取り付ける場合、スバル販売店にご相談ください。助手席SRSエアバッグシステムが正常に作動しなくなったり、作動時にこれらが飛び、命にかかわるような重大な傷害につながるおそれがあります。



500515

■SRSサイドエアバッグ・SRSカーテンエアバッグ

運転席、助手席各シートに格納されたSRSサイドエアバッグと左右のフロントピラー、ルーフサイドに格納されたSRSカーテンエアバッグが瞬時に膨らんだ後にしぼみます。膨らむのは衝撃を受けた側のみです。

SRSサイドエアバッグとSRSカーテンエアバッグは、乗員がいなくても作動します。



200311

■SRSサイドエアバッグ・SRSカーテンエアバッグ装備車に関しては、次の事項をお守りください

警告

- フロントシート背当てのSRSサイドエアバッグ格納部に手、足、顔を近づけたり、ドアにもたれかかるような姿勢で座らないでください。SRSサイドエアバッグが作動したとき強い衝撃を受け、命にかかわるような重大な傷害につながるおそれがあります。



201352

- お子さまなどに後席からフロントシートの背当てをかかえこむような姿勢はさせないでください。SRSサイドエアバッグが作動したとき強い衝撃を受け、命にかかわるような重大な傷害につながるおそれがあります。



201353

- スバル純正のSRSサイドエアバッグ専用シートカバー以外は使用しないでください。使用する場合には付属の使用説明書をよくお読みください。正しい向き、位置に装着しないとSRSサイドエアバッグシステムが正常に作動しなくなります。
- SRSサイドエアバッグが格納されている付近に物を置いたり、周辺にカップホルダーなどのアクセサリ用品を取り付けしないでください。SRSサイドエアバッグが作動したときこれらが飛び、命にかかわるような重大な傷害につながるおそれがあります。



200370

- ドアにもたれかかったり、フロントピラー・センターピラー・リアピラーおよびルーフサイド部や天井に近づかないようにしてください。SRSカーテンエアバッグが膨らんだときに頭部などに強い衝撃を受け、命にかかわるような重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。とくにお子さまを乗せるときには注意してください。
- フロントウィンドウ、ドアガラス、フロントピラー・センターピラー・リアピラー、ルーフサイド部、アシストグリップなどSRSカーテンエアバッグ展開部周辺にアクセサリやハンズフリーマイクなどを取り付けしないでください。SRSカーテンエアバッグが膨らんだときに、飛ばされて危険です。
- フロントピラー、リアピラー、ルーフサイド部などSRSカーテンエアバッグ展開部は、強く叩くなど過度の力を加えないでください。SRSカーテンエアバッグが正常に作動しなくなるなどして、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
- SRSカーテンエアバッグ装備車では、後席アシストグリップ部のコートフックには、ハンガーや重い物や鋭利な物をかけないでください。服をかけるときは、ハンガーを使用せず直接コートフックにかけてください。SRSカーテンエアバッグが展開したときに飛ばされて危険です。

SRSエアバッグが作動するとき、しないとき

警告

- SRSエアバッグが作動すると、ガス排出穴からガスが抜けて直ちにしぼみ始めます。(SRSカーテンエアバッグを除く)
排出穴からのガスに直接触れた場合に、やけどをすることがあります。
- SRSエアバッグが膨らんだ直後は、SRSエアバッグの構成部品に触れないでください。構成部品が大変熱くなっていますので、触れるとやけどをす
るおそれがあります。
- 大きな衝撃を受けた場合でも SRS エアバッグが作動しないことがありま
すが、必ずスバル販売店で交換してください。SRSエアバッグが正常に作
動せず、命にかかわるような重大な傷害につながるおそれがあります。

注意

SRS エアバッグが作動する、または、車両後方から大きな衝撃を受けると、ハイブリッドシステムを停止して高電圧を遮断します。また、燃料の漏れを最小限に抑えるため、燃料供給を停止します（オートディスコネクト機能）。オートディスコネクト機能が作動したときは、マルチファンクションディスプレイの表示に沿って、直ちにスバル販売店に連絡してください。

☆4-74ページ参照

車両を動かす必要があるときは、「事故が起きたときの対処のしかた」を参照してください。

☆8-32ページ参照

🏠 アドバイス

- SRSエアバッグは膨らんだ後、直ちにしぼんで視界を妨げません。(SRSカーテンエアバッグを除く)
- SRSエアバッグは一度だけ膨らみます。一度作動すると、2回目以降の衝突では再作動しません。
- SRSエアバッグは効果を発揮するために非常に速く膨らみます。このため、展開中のエアバッグと接触して打撲やすり傷、やけどなどを受けることがあります。
- SRSエアバッグが作動すると、作動音とともに白い煙のようなガスが発生しますが、火災ではありません。また、人体への影響もありません。ただし、残留物（カスなど）が目などに付着した場合は、すみやかに水で洗い流してください。皮ふの弱い方などは、まれに皮ふが刺激される場合があります。
- SRSエアバッグは一度膨らむと再使用できません。スバル販売店で交換してください。

■ 運転席、助手席SRSエアバッグが作動するとき、しないとき

運転席、助手席SRSエアバッグは車両前方から乗員が重大な傷害を受けるおそれのある大きな衝撃を受けた場合に作動し、シートベルトが身体を拘束する働きと併せて、前席乗員の頭部や胸部などへの衝撃をやわらげる装置です。

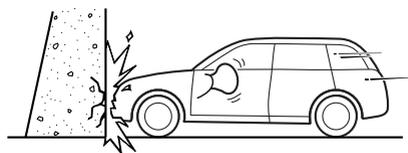
車体の衝撃吸収構造により、衝突時のエネルギーは車体がつぶれることで吸収または分散され、車体の損傷が大きくても乗員への衝撃は大きくならない場合もあります。

したがって、車体の損傷が大きくてもSRSエアバッグが必ずしも作動するとは限りません。

● 作動するとき

- 次のようなときに作動します。

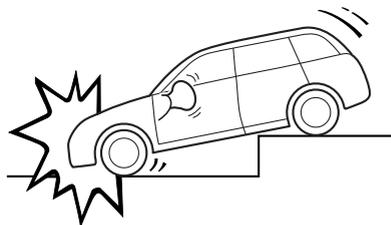
20～30 km/h以上の速度で厚いコンクリートのような壁に正面衝突したとき、また、これと同等以上の衝撃を受けたとき



202123

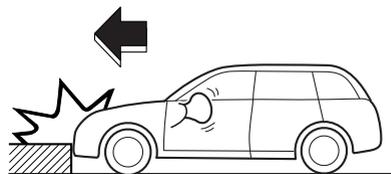
- 走行中路面などから車両下部に強い衝撃を受けたときも作動することがあります。

深い穴や溝に落ちたり、ジャンプして地面にボディ下面を強くぶつけたとき



202124

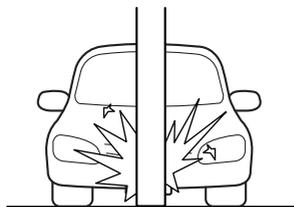
縁石に衝突したときや、道路上の突起にボディ下面を強くぶつけたとき



202125

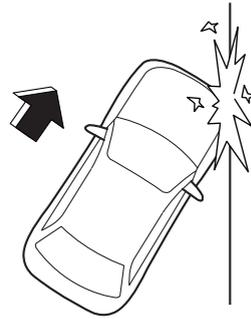
●作動しにくいとき

- 次のように、部分的に衝撃を受けたときや車両前方から衝撃が加わらなかったとき
電柱などに衝突したとき



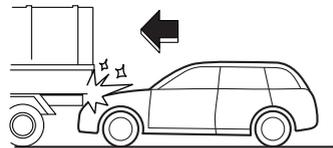
202126

斜め前方への衝突のとき



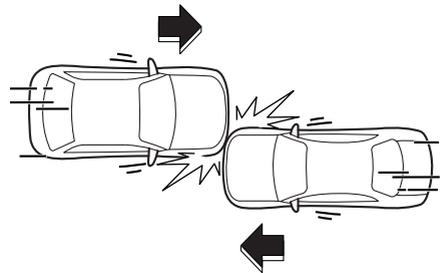
202128

トラックの荷台にもぐり込んだとき



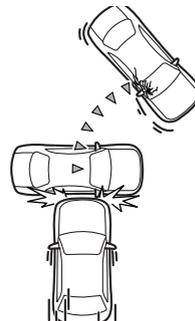
202127

片側衝突（オフセット衝突）のとき



202129

駐車している車両など、衝動により移動または変形するものに衝突したとき



202130

安全装備

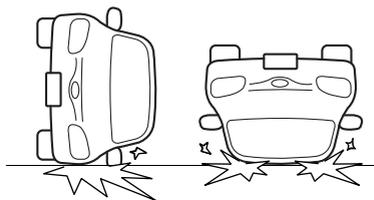
- また、次のような場合はSRSエアバッグがまれに作動することもあります、本来の効果は発揮されません。

後ろから衝突されたとき



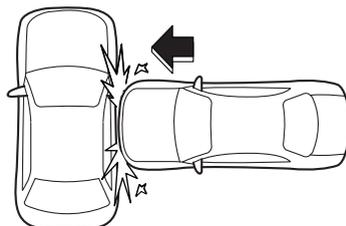
202131

横転や転覆したとき



202132

横方向から衝突されたとき

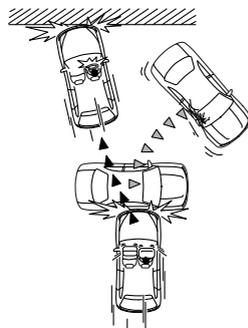


202133

●作動しないとき

- 次のようなときは作動しません。

一度SRSエアバッグが作動した後の衝突



201239

■SRSサイドエアバッグ・SRSカーテンエアバッグが作動するとき、しないとき

SRS サイドエアバッグは、シートベルトが身体を拘束する働きと併せて、前席乗員の主に胸部や腰部への衝撃をやわらげる装置です。

SRS サイドエアバッグは、車両側方から乗員が重大な傷害を受けるおそれのある大きな衝撃を受けた場合、作動します。

SRS カーテンエアバッグは、シートベルトが身体を拘束する働きと併せて、前席と後席乗員の主に頭部への衝撃をやわらげる装置です。

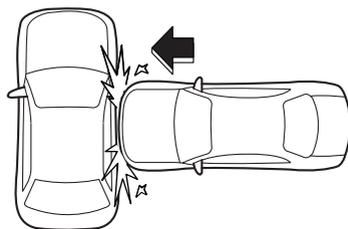
SRS カーテンエアバッグは、車両側方から乗員が重大な傷害を受けるおそれのある大きな衝撃を受けた場合、作動します。

SRSサイドエアバッグおよびSRSカーテンエアバッグの作動・非作動は、衝撃の大きさや衝撃を受けた部位、衝突方向などの条件により変わります。

●作動するとき

- 次のようなとき衝撃が大きいと作動します。

側面に真横から衝突されたとき

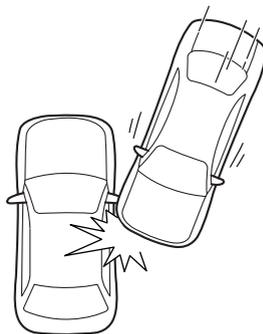


202133

●作動しにくいとき

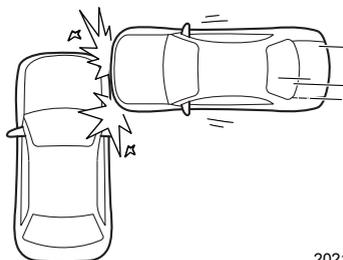
- 次のようなとき、衝撃の大きさによっては作動しないこともあります。
衝突した物が変形したり移動した場合、また、衝突した物の形状や衝突の状態によっては、衝突時の衝撃が弱められるため、SRSサイドエアバッグ・SRSカーテンエアバッグは作動しにくくなります。

車両側面に斜めから衝突されたとき



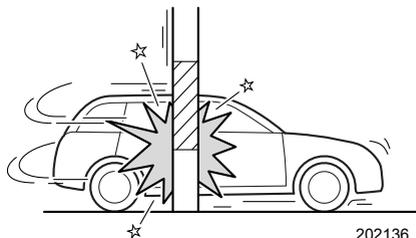
202277

客室以外に側面から衝突されたとき



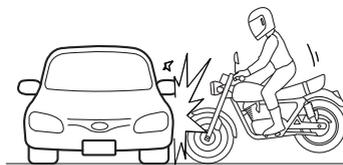
202135

電柱などに衝突したとき



202136

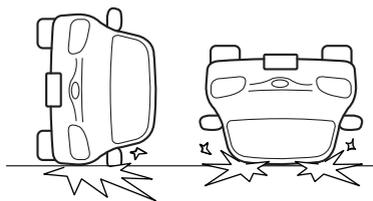
側面にバイクが真横から衝突したとき



202137

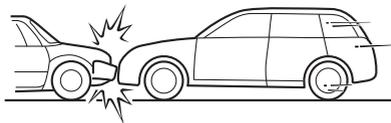
- 次のような場合はSRSサイドエアバッグ・SRSカーテンエアバッグがまれに作動することがありますが、本来の効果は発揮されません。

横転や転覆したとき



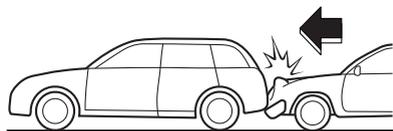
202132

停車中や走行中の車に正面から衝突したとき



202138

後ろから衝突されたとき

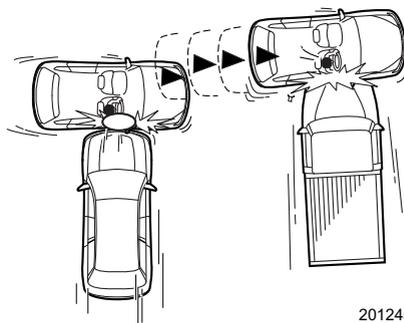


202139

●作動しないとき

- 次のようなときは作動しません。

一度SRSサイドエアバッグ・SRSカーテンエアバッグが作動した後の衝突



201245

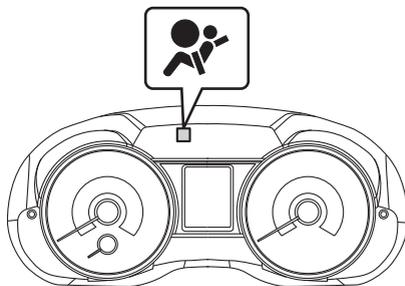
SRSエアバッグ警告灯

警告灯は、運転席、助手席、サイド、カーテンの各SRSエアバッグ、エアバッグセンサーおよびシートベルトプリテンショナーと兼用になっています。

エンジンスイッチをONにすると点灯し、約6秒後に消灯します。

また、システムの異常を検知するとマルチファンクションディスプレイに割り込み画面を表示します。

☆4-70ページ参照



500678

警告

警告灯が次のようになったときはシステム異常が考えられますので走行しないでください。衝突したときなどにSRSエアバッグが正常に作動せずけがをするおそれがあります。

直ちにスバル販売店で点検を受けてください。

- エンジンスイッチをONにしても点灯しないとき
- 走行中に点灯したとき

注意

上記のように警告灯がシステム異常を示している場合、軽微な衝撃でSRSエアバッグが作動したり、大事故でも作動しない場合があります。

車両の整備作業やカー用品を装着するとき

警告

車両の整備作業の場合には、必ず次のことをお守りください。守らないとSRSエアバッグが正常に作動しなくなったり、誤作動を起こし命にかかわるような重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

これらの作業が必要なときは必ずスバル販売店にご相談ください。

- サスペンションを改造したり、指定サイズ以外のタイヤへの交換はしないでください。車高が変わったり、サスペンションの硬さが変わるとSRSエアバッグが正常に作動しなくなったり、誤作動により思わぬ傷害につながるおそれがあります。
- 車両前部にスバル純正品以外の部品などは装着しないでください。車両前部を改造するとSRSエアバッグが正常に作動しなくなったり、誤作動を起こし重大な傷害につながるおそれがあります。
- ハンドル廻りやインストルメントパネル、センターコンソール付近の修理、オーディオシステム、ナビゲーションシステムの交換をする場合は、必ずスバル販売店にご相談ください。SRSエアバッグシステムに悪影響を与え、誤作動により重大な傷害につながるおそれがあります。
- 車体前面（車体側面）の板金塗装や修理をする場合は、必ずスバル販売店にご相談ください。SRSエアバッグシステムに悪影響を与え、誤作動により重大な傷害につながるおそれがあります。
- SRSサイドエアバッグ装備車は、フロントシートの表皮の張り替えやシートの取り外し・取り付け・分解・修理などをしないでください。シートに内蔵されているSRSサイドエアバッグが正常に作動しなくなったり、誤作動により思わぬ傷害につながるおそれがあります。
- SRSカーテンエアバッグ装備車では、フロントピラー、センターピラー、リヤピラー、ルーフサイド部の取り外し、取り付けなどSRSカーテンエアバッグ格納部周辺を分解、修理しないでください。
- SRSサイドエアバッグ・SRSカーテンエアバッグ装備車では、センターピラー、リヤピラー、リヤシートなどのセンサ格納部を分解、修理しないでください。衝突したときなどにSRSエアバッグが正常に作動せずけがをするおそれがあります。
分解、修理はスバル販売店で行ってください。
- SRSエアバッグが格納されているパッド部およびフロントピラー、リヤピラー、ルーフサイド部に傷がついていたり、ひび割れがあるときはそのまま使用せずスバル販売店で交換してください。
衝突したときなどにSRSエアバッグが正常に作動せずけがをするおそれがあります。
- 無線機などを取り付けるときはスバル販売店にご相談ください。
無線機の電波などはSRSエアバッグを作動させるコンピューターに悪影響を与えるおそれがあります。
- 車やSRSエアバッグを廃棄するときは必ずスバル販売店にご相談ください。
SRSエアバッグが思いがけなく作動して重大な傷害につながるおそれがあります。

AWD車の運転

運転するとき

AWDとは、All Wheel Drive（オールホイールドライブ＝全輪駆動）の略です。4輪車では4WD（四輪駆動）とも呼びます。

AWD車は、動力を4輪全てに伝え、ラフロード（悪路、砂地、泥地）や急坂などで安定した走りを発揮します。

- タイヤがしずみ込むような深い砂地、河川、海水中に乗り入れないでください。
やむを得ず走行したときは、走行後各部を念入りに洗ってください。砂、泥、塩分などがブレーキ内部に入って異常があるときは、すみやかに点検整備を受けてください。
- オフロード走行やラリー走行はしないでください。
この場合の故障は保証修理の対象にはなりませんのでご注意ください。
- AWD車は滑りやすい路面、積雪路などで2WD（二輪駆動）車より安定した性能を発揮しますが、急ハンドル、急ブレーキでは2WD車とあまり差がありません。
カーブや下り坂、雪道や積雪路など滑りやすい路面では十分にスピードを落とし、安全な速度と車間をとって慎重に走行してください。

警告

- 4輪のうち1輪でも異なるタイヤを装着していると、車両の駆動系の損傷や、最悪の場合、火災につながるおそれがあり危険です。また、操縦性・ブレーキ性能を危険なものにし、事故につながる可能性がありますので、下記事項をお守りください。
また、タイヤを交換するときは、7-10ページの記載事項をお守りください。

－著しく摩耗したタイヤは使用しないでください。

－タイヤの空気圧を指定空気圧に保ってください。

☆9-5ページ

- 雪道走行が予測される場合は、冬用タイヤ（スタッドレスタイヤ）を使用してください。装着のときは、6-2ページの記載事項をお守りください。
なお、一般タイヤでは、雪道、凍結路でスリップしやすく危険です。また、冬用タイヤ（スタッドレスタイヤ）は、乾燥路では一般タイヤに比べ、グリップ性能が低下します。
- タイヤチェーンは非常時のみ、指定チェーンを前輪に取り付けてください。タイヤチェーンを取り付けると、前後の駆動力バランスが変わるため後輪が滑りやすくなります。急発進、急ブレーキ、急ハンドルなどを避けて、路面の状況に合った安全な速度（30 km/h以下）で慎重に運転してください。
- 前輪のみの持ち上げけん引および、後輪のみの持ち上げけん引は絶対にしないでください。駆動装置が損傷したり、車がトレッカー（台車）から飛び出すことがあります。

☆8-24ページ参照

アクティブトルクスプリットAWD

アクティブトルクスプリットAWDを採用しています。走行条件に合わせて前後輪の駆動力配分を電子制御し、常に安定した走行性能を発揮します。

ブレーキ

アンチロックブレーキシステム：ABS

急ブレーキや滑りやすい路面でブレーキをかけたときに、タイヤのロック（車輪の回転が止まること）を防止して、車両の方向安定性を保ち、ハンドル操作性を確保する装置です。危険時はブレーキを確実に強く踏み続け、必要場合はハンドル操作で危険を回避してください。

ABSの電気系統に異常が生じた場合はABSは作動しませんが、通常のブレーキとしての性能は確保されます。

■制動距離やハンドル操作について

注意

- ABSは必ずしも制動距離を短縮する装置ではありません。
ABSの付いていない車両と同じように安全な車間距離をとって運転してください。
- ABSが作動した状態であっても車両の方向安定性、ハンドル操作性には限界があります。ABSを過信すると思わぬ事故につながるおそれがあります。常に安全運転を心がけてください。
- 下記の路面などでABSが作動した場合、ABSが付いていない車両よりも制動距離が長くなることがあります。
 - －マンホール、工事現場の鉄板などの滑りやすい路面
 - －道路のつなぎ目などの段差
 - －凹凸路、石畳などの悪路
 - －下り坂での旋回
 - －路肩に草や砂利が多い道路
 - －砂利道
 - －雪路（新雪路、圧雪路、凍結路など）
- タイヤチェーン装着時にはABSの付いていない車両に比べて制動距離が長くなる場合があります。
とくに速度を控えめにして車間距離を充分にとって運転してください。
- 車速が約10 km/h以下になるとABSは作動しません。

アドバイス

ABSが作動するとハンドル操作時のフィーリング（感覚）が若干変わります。

■振動や音について

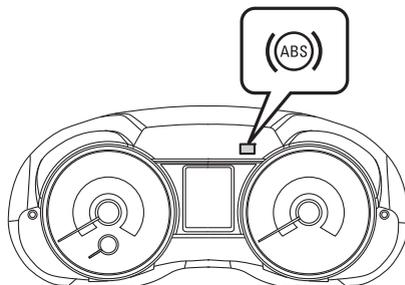
- ABSが作動したときは、ブレーキペダルが小刻みに動いたり、車体やハンドルなどに振動を感じることがあります。
これはABSが作動している状態を表し、異常ではありません。そのままブレーキペダルをしっかりと踏み続けてください。
- ハイブリッドシステムを作動させた後、最初の発進時に以下の場合がありますが、これはABS作動のチェックをしている動きで異常ではありません。
 - － エンジンルーム付近から一時的に作動音がする。
 - － ブレーキペダルを踏むタイミングによってペダルにABSが作動したときと同じような振動を感じる。

■ABS警告灯

エンジンスイッチをONにすると点灯し、約2秒後に消灯します。

また、システムの異常を検知するとマルチファンクションディスプレイに割り込み画面を表示します。

☆4-70ページ参照



500679

⚠ 注意

次の場合、システムの異常が考えられますので、すみやかにスバル販売店で点検を受けてください。

- エンジンスイッチをONにしても点灯しない
- 点灯したままのとき

なお、このような場合でも通常のブレーキとしての性能は確保されています。(ABSとしては作動しません)

🏠 アドバイス

次の場合は正常です。

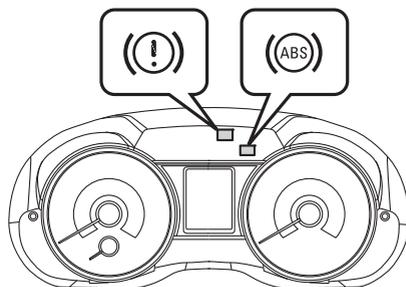
- ハイブリッドシステム始動時に警告灯が点灯してもすぐに消灯し、その後再び点灯しない
- ハイブリッドシステム始動後に警告灯が点灯したままであるが、その後走行中(車速40km/hになったとき)に消灯する
- 走行中に点灯してもその後消灯し、再度点灯しない

●エレクトロニック ブレーキフォース ディストリビューション (EBD)

ブレーキをかけたときの前後輪の荷重変化や強いブレーキ時の制動力の変化に応じて、リヤブレーキをコントロールして、後輪の早期ロックを防止する機能です。

また、システムの異常を検知するとマルチファンクションディスプレイに割り込み画面を表示します。

☆4-70ページ参照



500680

⚠ 注意

EBDシステムに異常が発生した場合、ブレーキ警告灯とABS警告灯が点灯します。

点灯した場合システムの異常が考えられますので、すみやかにスバル販売店で点検を受けてください。

EBDシステムに異常があるときは後輪がロックしやすくなります。

🏠 アドバイス

- EBDが作動するとブレーキペダルに動きを感じたり、ABS作動時に似た音が聞こえることがあります。
- ブレーキ警告灯は駐車ブレーキが完全に解除されていないときや、著しくブレーキ液が不足したときも点灯します。

☆3-39ページ参照

ブレーキブースター（制動力倍力装置）

ブレーキブースター（制動力倍力装置）はエンジンの吸入負圧を利用してブレーキペダルを踏む力を軽減する装置です。

アドバイス

ハイブリッドシステムが停止している状態や長時間の駐車の後などでブレーキブースター内の負圧が不足している場合にブレーキペダルを踏むと（減速、停止するとき）通常よりも強い力が必要になります。

ブレーキオーバーライド

アクセルペダルとブレーキペダルが同時に踏まれた場合、ブレーキの制動力を優先させるブレーキオーバーライド機能を備えています。アクセルペダルが全開の状態でも、安全に止まれる可能性があります。また、アクセルペダルが固着して戻りにくい場合でも、ブレーキペダルを踏むことで確実に減速できます。

警告

- ブレーキオーバーライド機能に頼った運転は絶対に行わないでください。あらゆる状況で衝突を回避するものではありません。
- ブレーキオーバーライド機能の性能には限界があります。誤った使用をすると、思わぬ事故につながるおそれがあります。

ブレーキアシスト

ブレーキを強く踏めない運転者の操作を補助する装置です。ブレーキペダルを強く踏み込んだとき、もしくは早く踏み込んだときに、緊急制動と判断し、より大きな制動力を発生させます。

注意

ブレーキアシストは本来持っているブレーキ性能を超えた制動力を発生させる装置ではありません。

アドバイス

ブレーキペダルを踏み込んだとき、次のような現象が起こりますが、これはブレーキアシスト機構が正常に機能しているときの現象で、異常ではありません。

- ブレーキペダルを強く踏み込んだとき、もしくは早く踏み込んだときに、ブレーキペダルが軽くなりブレーキが強くなるようになります。その際、ABSが通常より早く効くことがあります。

VDC

ビークルダイナミクスコントロールシステム

走行中、滑りやすい路面や障害物の緊急回避などのときには、車両が横滑りや尻振りを起こすことがあります。VDCは、ブレーキ制御、エンジン・モーター出力制御により、横滑りなど車の不安定な挙動を抑えるシステムです。

■VDCの主な機能

●トラクションコントロール (TCS) 機能

トラクションコントロール (TCS) 機能は、ブレーキ制御、エンジン・モーター出力制御により、滑りやすい路面などで生じる駆動輪の空転を防止して駆動力、操舵能力を確保する機能です。

この機能が作動すると、VDC作動表示灯が点滅します。

☆5-29ページ参照

●横滑りコントロール (VDC) 機能

急なハンドル操作や滑りやすい路面などでの旋回時に、ブレーキ制御、エンジン・モーター出力制御により車輪の横滑りなどを抑制し、車両の方向安定性を確保する装置です。この機能が作動すると、VDC作動表示灯が点滅します。

☆5-29ページ参照

⚠ 注意

- VDCを過信しないでください。VDCが作動した状態でも車両の安定性の確保には限界があり、無理な運転は思わぬ事故につながるおそれがあります。常に安全運転を心がけてください。
- VDCが作動するような路面では車速を十分に落として運転してください。
- サスペンション構成部品およびアクスルの脱着時は、必ずスバル販売店で点検を受けてください。

次の事項は必ず守ってください。

- 雪道走行するときは、冬用タイヤ (スタッドレスタイヤ) またはタイヤチェーンを装着して走行してください。
- タイヤチェーンを装着するときは、6-3ページの記載事項をお守りください。
- 冬用タイヤ (スタッドレスタイヤ) を装着するときは、6-2ページの記載事項をお守りください。
- VDC装備車であってもカーブなどの手前では、十分に速度を落としてください。

次ページへ ⇒

⇒前ページより

- VDCが正常に機能しなくなることがありますので、下記事項をお守りください。
また、タイヤを交換するときは、7-10ページの記載事項をお守りください。
 - － 著しく摩耗したタイヤは使用しないでください。
 - － タイヤの空気圧を指定空気圧に保ってください。
- ☆9-5ページ参照



アドバイス

- VDCが作動したとき、ブレーキが小刻みに動いたり、車体やハンドルなどに振動や作動音を感じることがあります。これは、VDCが作動している状態で、正常です。
- ハイブリッドシステムを始動した後の最初の発進時に、エンジンルーム付近から一時的に作動音がします。これは、VDCの作動をチェックしている音で正常です。
- ハイブリッドシステムを始動した後の発進時に、ブレーキペダルを踏み込むタイミングによっては、ペダルにABSが作動したときと同じような振動を感じることがあります。これは、VDCの作動をチェックしている動きで、正常です。
- VDCが作動しているときはハンドル操作時のフィーリング（感覚）が若干変わります。
- タイヤ交換の際は必ずエンジンスイッチをLOCK (OFF) にしてください。ハイブリッドシステムを作動させたままタイヤ交換を行った場合は、VDCが正常に機能しなくなることがあります。

☆7-10ページ参照

■VDC警告灯/VDC作動表示灯

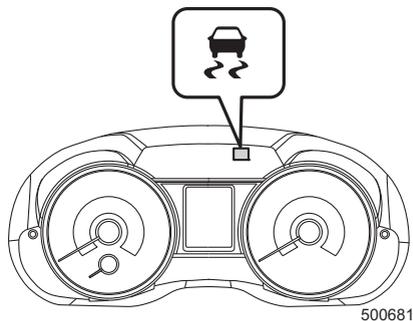
エンジンスイッチをONにすると点灯し、ハイブリッドシステム始動後約2秒後に消灯します。

●VDC警告灯

VDCの電子制御システムに異常があると点灯します。

また、システムの異常を検知するとマルチファンクションディスプレイに割り込み画面を表示します。

☆4-70ページ参照



500681

●VDC作動表示灯

TCS機能作動時、またはVDC作動時に点滅します。

⚠ 注意

- 次の場合は異常が考えられますので、すみやかにスバル販売店で点検を受けてください。
 - － エンジンスイッチをONにしても点灯しない
 - － ハイブリッドシステム始動後、数分たっても消灯しない
 ただし、エンジンスイッチを一気にSTART（ハイブリッドシステム始動）にした場合、警告灯が点灯し続けることがあります。再度エンジンスイッチをOFFまで戻し、ONで約1秒止めてからSTART（ハイブリッドシステム始動）にして、消灯する場合は、異常ではありません。上記の操作を繰り返しても点灯し続ける場合はシステムの異常です。
- VDCの作動にABSの構成部品を使っているため、ABSの電子制御システムに異常があるときはABS警告灯の点灯と同時にVDC警告灯も点灯します。VDC警告灯とABS警告灯が同時に点灯したときは、VDCおよびABSも作動しません。通常のブレーキとしては作動しますので、走行上支障はありませんが、滑りやすい路面では注意して走行し、すみやかにスバル販売店で点検を受けてください。
- VDC警告灯のみが点灯したときは、トラクションコントロール（TCS）機能および横滑りコントロール（VDC）機能は作動しませんがABSは作動します。VDCの付いていない車両と同じように扱ってください。滑りやすい路面では注意して走行し、すみやかにスバル販売店で点検を受けてください。

🏠 アドバイス

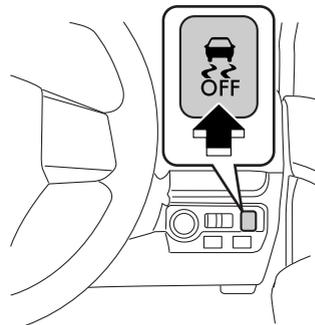
- 警告灯が下記の場合は正常です。
 - － ハイブリッドシステム始動後に警告灯が点灯してすぐに消灯し、その後再び点灯しない
 - － ハイブリッドシステム始動後に警告灯が点灯したままであるが、その後走行中に消灯する
 - － 走行中に点灯してもその後消灯し、再度点灯しない
- 寒い朝などにハイブリッドシステムを始動させた場合、消灯するまでに時間がかかる場合がありますが、これは異常ではありません。

■ VDC OFFスイッチ

ハイブリッドシステムが作動しているとき、VDC OFFスイッチを押すとVDCが解除されます。

VDCが解除されるとマルチファンクションディスプレイに割り込み画面を表示します。

☆4-70ページ参照



301772

下記のような特殊な状況下において、VDCを一時的に解除して駆動輪を適度にスリップさせた方が、走破性が向上するという場合に使用します。

- 雪や砂利などで覆われた急登坂路で発進するとき
- むかるみ、深い雪にタイヤが埋まった状態から脱出するとき

VDCが解除されるとメーター内のVDC OFF表示灯が点灯します。復帰させるときにはもう一度VDC OFFスイッチを押します。

<EyeSight装備車>

VDCを解除すると、EyeSightの機能が停止します。

☆「EyeSight取扱説明書」参照

⚠️ 注意

VDCは、ブレーキ制御、エンジン・モーター出力制御により横滑りなど車の不安定な挙動を抑えるシステムです。必要なとき以外は、VDCを解除しないでください。また、VDCを解除したときは、路面状態に応じた安全な速度で慎重な運転を心がけてください。

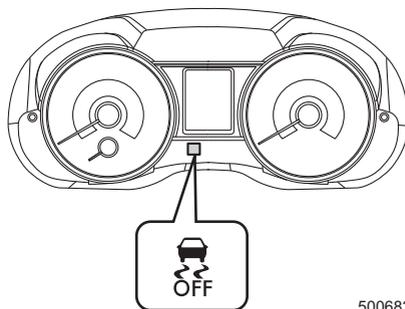
アドバイス

- VDC を解除しても一部のブレーキ制御は作動します。その場合、VDC 作動表示灯は点滅します。
- VDC OFF スイッチを押しても切り替わらない場合、一度エンジンスイッチをLOCK (OFF) またはACCにし、再度ハイブリッドシステムを始動してください。それでも切り替えできないときは、スバル販売店にご相談ください。
- ハイブリッドシステムを始動すれば VDC は自動的に作動可能状態になります。

■ VDC OFF表示灯

エンジンスイッチがONで点灯し、約2秒後消灯します。

VDC OFF スイッチを押してVDC を解除したとき点灯します。



500682

ヒルスタートアシスト

ヒルスタートアシスト

ヒルスタートアシストは上り坂での前進時および下り坂での後退時にブレーキペダルからアクセルペダルに踏みかえる際に発生する車両の後退・前進を一時的に防ぐことで、発進を容易にする装置です。

■ヒルスタートアシストの作動

ブレーキペダルをしっかりと踏んで車両が停止した状態から、ブレーキペダルを離すと1～2秒間ブレーキがかかった状態になります。

●ヒルスタートアシスト作動時のセレクトレバー位置

上り坂での前進時	<input type="checkbox"/> または <input type="checkbox"/>
下り坂での後退時	<input type="checkbox"/>

●ヒルスタートアシストが作動しないとき

次の場合、ヒルスタートアシストは作動しません。

- 駐車ブレーキをかけたとき
- エンジンスイッチをACCまたはLOCK (OFF) にしたとき
- ヒルスタートアシスト警告灯が点灯したとき (ヒルスタートアシスト機能OFFも含む)
- 上り坂で後退するとき (セレクトレバーが または 以外のとき)
- 下り坂で前進するとき (セレクトレバーが 以外のとき)

警告

- ヒルスタートアシストを過信しないでください。極端に急な上り坂、凍結した上り坂、泥状の上り坂では発進が困難な場合があります。慎重に発進してください。
- 坂道で車を駐停車するためにヒルスタートアシストを使用しないでください。思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
- ヒルスタートアシスト作動中に、ハイブリッドシステムを停止しないでください。ヒルスタートアシストが解除され、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

🏠 アドバイス

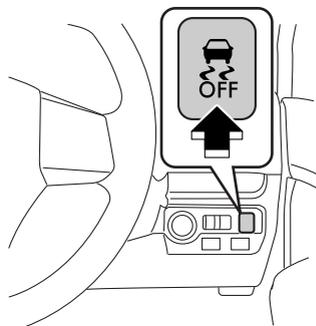
- ヒルスタートアシストは下り坂で前進するときは機能しません。また、緩やかな上り坂でも機能しない場合があります。
- セレクターレバーを[R]に入れて後退した後に前進する場合、わずかに衝撃を感じる場合があります。
- ヒルスタートアシストのブレーキ力が不十分なときは、再度ブレーキペダルを踏んでください。
- 停車中はブレーキペダルを確実に踏んでください。

■ヒルスタートアシストを解除するとき

ヒルスタートアシストを解除する場合、次の手順を行ってください。

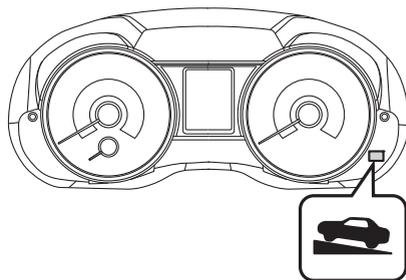
ヒルスタートアシストを解除するとヒルスタートアシストOFF表示灯が常に点灯します。

- ① 地面が平坦で硬く、車が安定する場所に駐車します。
- ② 駐車ブレーキが確実にかかっていることを確認します。
- ③ エンジンスイッチをLOCK (OFF) にします。
- ④ ハイブリッドシステムを始動します。
ABS警告灯およびVDC警告灯が消灯していることを確認します。
- ⑤ VDC OFFスイッチを押し (VDC OFF表示灯が点灯)、そのまま保持します。
VDC OFF表示灯が消灯するまで押し続けます (約30秒)。



301772

- ⑥ 消灯後、5秒以内にスイッチを離します。
- ⑦ スイッチを離したあと、2秒以内に再度VDC OFFスイッチを押します。
ヒルスタートアシストOFF表示灯が点灯します。



500683

次ページへ ⇒

⇒前ページより

- ⑧ エンジンスイッチをLOCK (OFF) にします。
ヒルスタートアシストが解除されます。

復帰させるときは、上記①から⑧の手順を行ってください。
復帰後、ヒルスタートアシストOFF表示灯が消灯します。

 **注意**

ヒルスタートアシストを解除したときの坂道発進は、ブレーキペダルと駐車ブレーキを併用してください。

 **アドバイス**

- 途中で操作を間違えたり、ヒルスタートアシストOFF表示灯が点灯しない場合は一度エンジンスイッチをLOCK (OFF) にし、④の手順からやり直してください。
- VDC OFFスイッチを30秒以上押し続けるとメーター内のVDC OFF表示灯が消灯し、以後の操作を受け付けなくなります。この場合、VDCは通常のように作動します。一度エンジンスイッチをLOCK (OFF) またはACCにし、再度ハイブリッドシステムを始動すれば元に戻ります。

■ヒルスタートアシスト警告灯/ヒルスタートアシスト OFF表示灯



●ヒルスタートアシスト警告灯

エンジンスイッチをONにすると点灯し、ハイブリッドシステム始動後約2秒後に消灯します。

ハイブリッドシステム作動中、ヒルスタートアシストの制御システムに異常があると点灯します。

警告

警告灯が点灯したときは、ヒルスタートアシストは作動しません。すみやかにスバル販売店で点検を受けてください。

●ヒルスタートアシストOFF表示灯

ヒルスタートアシストの機能を解除したとき点灯します。

ハンドル

パワーステアリング

電動パワーステアリングを採用しています。ハイブリッドシステム始動後約2秒後にパワーステアリングが作動します。



アドバイス

車庫入れなどでハンドル操作を繰り返したり、ハンドルをいっぱいまで回した状態が続いた場合は、ハンドル操作が徐々に重くなることがあります。

これはコンピューターやモーターが過熱することを防止するためにシステムの作動を制限している現象で、異常ではありません。

しばらくハンドル操作を控えるとシステムの温度が下がるため、通常の操作力に戻りますが、システムが過熱する使いかたを繰り返すと、故障の原因となります。

タイヤおよびホイール

タイヤの点検

タイヤに大きな傷がないか、釘がささったり石が噛み込んでいないかを日常的に点検してください。タイヤが異常に摩耗していないかも併せて点検してください。タイヤの損傷や異常摩耗が見つかったらスバル販売店にご相談ください。

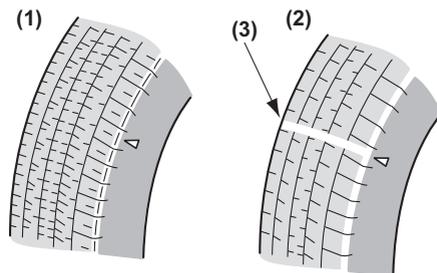
⚠ 注意

- 縁石にぶつかったときや荒れた路面を走行したときの衝撃でタイヤやホイールが目に見えない損傷を受けることがあります。このような損傷は後にならないとわかりません。縁石に乗り上げないように心がけてください。やむを得ず縁石に乗り上げる際はゆっくりと、直角に乗り上げるようにしてください。また、駐車するときはタイヤが縁石に押しつけられていないか確認してください。
- 走行中いつもと違う音や振動を感じたり、車両の直進性が悪いようであれば、いずれかのタイヤおよびホイールが損傷を受けている可能性があります。お近くのスバル販売店まで安全を確かめながら走行して点検を受けてください。

ウエアインジケーター

タイヤには、ウエアインジケーター（摩耗表示）がついています。タイヤの接地面の溝の深さが1.6 mm以下になると現れます。タイヤの接地面にウエアインジケーターが現れたときにはタイヤを交換してください。

- 新品タイヤ (1)
- 摩耗したタイヤ (2)
- ウエアインジケーター (3)



700022

警告

ウエアインジケーターが現れたら、タイヤの摩耗が限度以上になっています。すぐにタイヤを交換してください。

ウエアインジケーターが現れたままで雨天の高速走行をすると、ハイドロプレーニング現象[※]を起こしやすく、その結果車両のコントロールを失い、事故につながるおそれがあります。

※ 水のたまった道路を高速で走行すると、タイヤと路面の間に水が入り込み、タイヤが路面から浮いてしまい、ハンドルやブレーキが効かなくなる現象。

注意

安全のため、タイヤの接地面を定期的に点検し、ウエアインジケーターが現れる前に新品と交換するよう心がけてください。

ホイールバランス

新車時、各ホイールのバランスは調整してありますが、しばらく使用するとタイヤの摩耗とともにホイールバランスが狂ってきます。

ホイールバランスが適正でないと、特定の速度域でハンドルが小刻みに振動したり、直進性が悪くなったりするばかりか、ステアリング系統やサスペンションの故障およびタイヤの異常摩耗などの原因となります。ホイールバランスの狂いによる振動を感じたら、スバル販売店でホイールバランスを点検・調整してください。

タイヤの修理をした際、またはタイヤを交換した際もホイールバランスの調整をしてください。

ホイールアライメント

ホイールアライメントとは車の安定性を保つために設定されている、路面や車体に対するタイヤの角度です。タイヤを縁石に強くぶつけたりするとホイールアライメントが狂い、車の安定性が損なわれたりタイヤが異常に摩耗したりすることがあります。

タイヤを縁石などに強くぶつけた場合は、スバル販売店でホイールアライメントのチェックを行ってください。